

地域における 文化芸術活動 のしまいかた をつづけた をめぐって

地域が主体・対象となる様々な文化芸術活動が近年各地で実施されています。長期に亘るこうした活動の内部では、運営コミュニティを核として活動の方向が不断に検討され、形作られています。活動の持続性を考えるとき、そこには、変化に対応しながら活動を継続する／役割を終えたと考え区切りをつける／新しい目標をみつけるために継続する／つづけ方の新しい仕組みを検討する、などさまざまな向き合いかたがあるように思われます。本研究会では、10年以上継続している活動に関わるスピーカーのトークをもとに、地域に根差した文化芸術活動の持続的なありかたとその意味について考えます。

スピーカー **卓彦伶** [北海道大学大学院 文学院 博物館学研究室]

藤沢レオ [彫刻家・NPO法人樽前arty+ 理事]

モデレーター 山下俊介 [北海道大学総合博物館] 主催 博物館研究会(北海道大学総合博物館) 共催 NPO法人樽前arty+

入場無料

スピーカー **卓彦伶**



「博物館の地域連携事業に対する
ロジック・モデルを用いた評価実践」

博物館が行う地域連携事業の社会的価値を地域住民とともに検討することによって、住民が求める「価値のある」地域のあり方に対して博物館が果たすべき役割が見えてくると考えています。評価学の手法であるロジック・モデルを用いた実践を中心に、土別市朝日郷土資料室「知恵の蔵運営委員会」と伊丹市昆虫館の地域連携事業「鳴く虫と郷町」の取り組みについてお話します。

スピーカー **藤沢レオ**



「祝祭性と日常性を歩く
— 一定点観測からの視座」

樽前arty+という定点観測は、地域の会話と自身の芸術活動に変化をもたらしました。“持続的活動”という時に含まれる拡張していくニュアンスは無意識に受容され、問われることもありません。いま「芸術祭のしまい方」(*)を標榜する祝祭性への疑念は、日常性の再定義への試みでもあり、自覚的に考えなければいけない喫緊の問いとして対話を始めようと思います。

※NPO法人樽前arty+主催の企画タイトル <https://tarumae.com>

◎日時 **7/30(火) 17:00~19:00** ◎会場 **北海道大学総合博物館 知の交差点(講演室)**

問合せ先 s-yamashita@museum.hokudai.ac.jp 担当 山下・湯浅